

活動名（教科） 春夏秋冬のしぜん（理科）

対象学年 4 年

実施期間 4 月～ 2 月

実践者（所属） 倉田 亨（稗原小）

1．指導にあたって

(1) この単元の特徴や指導の難しさ

- 過ぎた季節をふり返って比較する時など、視覚的に残っている画像がないとイメージしにくい場合がある。またまとめの学習の際に十分に活用することができない。

(2) それを克服するための ICT 機器やメディアの活用（利用の意図と工夫）

- デジタルカメラを使って画像として残すことで、過ぎた季節をふり返って学習する時に有効になるし、またまとめ学習にも活用できる。

2．単元の主な目標

- 身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と季節とのかかわりについての考えをもつようにする。

3．指導計画の概要（10 時間程度）

時間	学習内容	児童の活動（利用メディア）	指導の留意点
春夏秋冬各 2 程度	○校内の生き物、植物について観察し記録する。 ○撮ってきた画像を使って、観察カードを作る。 ○それぞれの季節ごとの比較をする際に、観察カードを活用する。	・生き物、植物の様子をデジタルカメラで記録し、PC ルームのサーバーフォルダに保存しておく。 ・プレゼンテーション用ソフトを使ってまとめ、プリントアウトし、保存しておく。	・1 年間、同じ場所の記録をしていくようにする。 (グループ分けにしておくより比べやすくなる。) ・プリントアウトした観察カードをノートにはり、いつでもみれるようにしておく。 ・同じ学習を春夏秋冬それぞれ行う。
2	○1 年間保存してきた画像をもとにして、生き物や植物の様子について記録をまとめる。	・季節ごとに保存してきた画像をもとにして、プレゼンテーション用ソフトを使ってまとめる。	・今までの学習を振り返るとともに、季節ごとに変化がわかるようにまとめる。

4．取り組み後の子ども達の変容や成果

デジタルカメラやパソコンを使うことで、子どもたちはより意欲的に取り組めるようになった。

1 年間、同じ場所を観察し、記録することで日頃から気につけ、見に行くこと子もいた。

また、プレゼンテーション用ソフトを使ってのまとめをするのが、はじめての学年であるので、発表用のまとめ方の選択肢が広がり、他の教科の発表でも用いるようになった。